

山形県教育会は、昭和2年、待望の教育会館を設立しました。県下の教職員の出資金をもとにして、昭和元年12月、山形ホテル（木造3階建て、明治39年建築）を買取り、翌年には、鉄筋コンクリート4階建ての新館を建築して、10月に落成式を行ったのでした。

会館は、会員の宿泊施設として利用されたほか、山形県教育会の事務局がおかれて、「本県教育の振興をはかり特に教育者の修養と福利を目的」とする教育会の事業の場として、講習会等がしばしばひらかれ、また、新館2階には郷土博物館が設けられました。

戦時中は海軍に、戦後は進駐軍に接収されましたが、昭和23年以來、財団法人山形県教育会館として管理運営が行なわれています。

このたび公開する資料は、終戦まで会館の各室に掲げられていた書画の額や軸物が中心で、明治41年から19年間続いたのみで廃校になった「山形市高等小学校」の名が入っている数点を除いて、由来がはっきりしないのが残念ですが、来県した高官が残したものや会員が納めたものが多いと思われます。書画そのものの価値と共に、戦前の教育の一端をうかがうことができます。

展 示 資 料

- 一字一涙碑拓本
- 弘道館記拓本
- 回天詩史拓本
- 立石寺如法経所碑拓本
- 藤田彪書 正気歌
- 高島雲峰筆 山水図
- 鎌戸きく筆 婦人風俗画
- 綜芸種智院式並序（複製）

他

メモ

博物館では、収集・整理した県内の竹細工品をとおして、竹がどのように利用されてきたか、竹細工職人の高い技術など理解できるように展示します。

展 示 資 料

- 衣 笠（一文字笠・マンジュウ笠・竹皮笠）ぞうり
- 食 食器（竹あみ杓子・ザル各種）
- 住 あかり（ちょうちん・ランプ台）
- 生産用具 養蚕（桑かご・桑盆）
農具（田下駄・苗かご・ざる・み）
漁具（笊・びく）
- 運搬用具 竹かご類
商用具（明荷・竹かご）
- 玩具 竹馬・竹鉄砲・凧

新収蔵品展

— 解説・資料目録 —

1979. 3.10（土）～4.15（日）

山形県立博物館

民 俗

竹 の 民 具

竹は東南アジアからモンスーン気候の影響する地域の特産物であります。竹は比較的温暖な所を好み、日本で広く分布し、多く利用されているものとして、孟宗竹（モウソウチク）・真竹（マダケ）・淡竹（ハチク）・蕭竹（ヤダケ）・女竹（メダケ）チシマザサなどがあげられます。

竹は、古くから日常生活のなかで、いろいろな方法で利用されてきました。たとえば食用としてタケノコ、包装用として竹の皮、貯蔵用にササの葉などがあげられます。また、竹の桿部は、土木建築用として利用されたり、漁具の釣ざおなどには最も愛用されているものと言えるでしょう。

また、竹のもつ性質を利用して加工され、衣食住をはじめとして、生産用具・信仰具・遊び具に至るまで多方面の竹細工品が愛用されています。山形県では、庄内地方に美しい竹細工品があり、現在でも遊佐町吹浦の畠中鳳山氏によって高い技術が守られています。その他に、鶴岡市の竹かごとか、山形市周辺の竹細工人たちによって作られている果物かごなどの日用品があります。

開催にあたって

この催し物展は博物館の収集・整理活動のまとめとして、本年度あたらしく収蔵した資料や整理した資料の中から、県民にとって興味深い貴重な資料を選んで展示します。開催するにあたって、いろいろな資料をご寄贈して下さった方や収集活動にご協力下さった方々へ厚くお礼申し上げます。



地学

貝化石

海生の貝化石は、古生代（約6億～2億2500万年前）中生代（2億2500万年～7000万年前）、新生代（7000万年前～）の各時代の地層から数多く産出します。中には、その仲間が絶滅してしまったもの、現在まで生きのびているものなどがあります。

北上山地には、古生代の地層が広く分布し、いろいろな化石が発見されています。腕足類のレプトダスの産する岩石には、三葉虫、海ユリ、フズリナ（紡鐘虫）などの化石を多く産出します。これらの化石は、古生代の化石の代表的なものです。三葉虫、フズリナなどは、古生代の末には絶滅した生物です。

中生代の海には、サンゴ、アンモナイトや、二枚貝のエントモノチス、イノセラムスなどの貝がすみ、化石として、北海道留萌郡小平町や宮城県気仙沼市の中生代の地層から産出します。

新生代に入ると、植物も動物の種類も多くなり哺乳動物も現れ、日本各地から産出します。岐阜県瑞浪市からは、マテガイ、ホタテなどの貝化石が産出します。

カキの化石は、古生代後期から新生代の地層から産出しますが、カキは、一般に塩分の少ない入江や内湾にすんでおり、カキ化石の産出は、当時の環境を推定するのに役立ちます。しかし、化石の産状を調べることが、さらに一層当時の環境を知る上で大切なことです。

展示資料

- 三葉虫 宮城県気仙沼市産
- レプトダス 〃
- イノセラムス 北海道留萌郡小平町産
- アンモナイト 〃
- エントモノチス 宮城県志津川町産
- マテガイ他6点 岐阜県瑞浪市産
- カキ 山形県小国町産
- チシマガイ 〃 真室川町産

植物

杉本金三氏寄贈「キノコ図譜」

鶴岡市のキノコ研究者、杉本金三氏が、永年の研究成果を集約された「原色キノコ図譜」949点を、昭和48年12月（880点）、50年11月（41点）53年12月（28点）に、本館に寄贈されました。

本資料は、キノコの生態と解剖図が手描きされたもので、キノコの特徴がよく伝えられ、的確に描きだされています。それに孢子と検鏡による孢子紋が添えられており、専門的な解説とあわせて、学術的にも貴重な資料です。

杉本氏の研究は、多くの専門家から高く評価され、特に、県内産のキノコの分類や分布、生態をとき明かすまたとない資料です。

杉本金三氏のプロフィール

昭和21年、杉本氏が鶴岡市立朝陽第四小学校に赴任しました。当時は、終戦直後で、極度の食糧難の時代であったから、学区民の多くは、食用野草、キノコ、山菜などを山野に求め、食糧のたしにしていました。

当然、学区内では、キノコの中毒が相ついで起り大変な騒ぎになりました。杉本氏は、この恐しいキノコの中毒から、学区民を救うことを考えました。当時、山形県立農林専門学校（現山形大学）教授であった佐藤正己氏の助言、指導を受けながら、学区内の山野をかけめぐり、手当たり次第に、毒キノコを中心に写生図、解剖図、孢子紋、解説を記録していったそうです。

そして、この写生図を持って、学区内を訪問し、キノコ中毒の恐しさ、鑑別法、食事法を懇切丁寧に指導しました。その努力が認められ、杉本氏の学区内からは、キノコの中毒が起らなかったそうです。

以来30数年、庄内一円に生えるキノコを採集し、市町村をまわって、キノコの中毒防止に尽力してきた方です。

主な展示資料

- ナミワカフサタケ
- オトメノカサタケ
- キカワラタケ
- ニセモリノカサタケ
- クリフウセンタケ

他 23点

動物

山形県産サケ科の魚

サケやサクラマスなどは北太平洋系の北方系の魚ですが、県内では8種類が繁殖しています。

吾妻・飯豊・朝日・月山・鳥海・蔵王などをはじめ、その他の山岳地帯を源流としている川の上流部では、水温が夏の日中でも12～13度以下で、河床が岩と礫である清冷域にはイワナがすんでいて、すぐ下流部にはヤマメが分布しています。下流になるにつれて水温も高くなりますが、夏の日中水温が18度ぐらいまでの流域に、サケ科の魚は生活しています。

最近ではヤマメがすくなくなり、放流されたニジマスやカワマスなどが生息している川もあります。

昭和の初めから東根市荷口など豊富な泉が出る地帯ではニジマスなどが養殖されてきましたが、今ではマス釣場といわれるレジャー産業の一つとしても広く各地で養殖されるようになってきました。

高級な食用魚として、また、放流用として需用が増大しているヤマメやイワナなども各地でふ化養殖が試みられています。

本県のサケがのぼる主な川は、北から月光川・日光川・最上川・赤川・五十川・小国川・鼠ヶ関川の7河川です。

サケののぼる量からみると月光川が断然多く、県全体の採捕量の90%を占めていますが、ついで最上川・日光川・赤川の順となっています。

県内のサケの採捕量の推移をみると昭和20年代は年平均7,000尾、30年代には15,000尾、そして40年代に入って30,000尾、50年代に入ると50,000尾以上もとれて順調な進展をみえています。しかし一年毎に見てゆくと非常に大きな変動があるのが特徴です。

月光川のサケ遡上量は、本州でも有数の多い川になっており、人工ふ化放流の増大とともに各河川の安定した漁獲が期待されています。

展示資料

- ミユビナマケモノ
- イワナ
- ヤマメ
- ニジマス
- アメモス など

考古

稲荷森古墳第一次発掘調査出土品

稲荷森古墳は、南陽市に所在します全長約96mの美事な県内最大の方後円墳です。

本館では、この古墳の重要性を考え、昭和52年度に発掘調査を行ったものです。

今回の調査の第一のねらいは、古墳のまわりに周濠を備えているかどうかを確認することでした。発掘調査の結果は、周濠は発見されず、周濠を作らなかった可能性が高いものと考えられます。

また、墳丘部の一部分も調査したところ、整然とした盛土層が認められ、その一番下から古墳時代の土器も出土しました。盛土層を確認したことは、発掘によっても古墳であることを明かにしたもので意義深いことです。出土した古墳時代の土器も、古墳造成時の祭祀にかかわるものとも考えられ、古墳の年代を推定するうえでの重要な資料といえます。他に、古墳の周辺からは、平安時代の土器が多数出土しています。

展示資料

- 稲荷森古墳実測図及び調査区図
- 稲荷森古墳発掘関係写真 9点
- 稲荷森古墳出土品 15点

古窯跡関係出土品

県内には、土器や瓦を生産した古代・中世・近世の古窯跡が多数存在しています。

今回は、本館で収集しました窯道具、土器を展示します。

展示資料

- 寒河江市平野山古窯跡出土品
- 米沢市戸長里窯跡出土品
- 尾花沢市上の畑窯跡出土品など 25点

歴史

山形県教育会館旧蔵資料

教育会館は、昭和52年4月に新装オープンし、教育関係諸団体の活動センター、教職員とその家族及び退職教職員の福祉施設として、さらに一般県民にも開放されて、広く利用されていますが、解体された旧教育会館には、半世紀におよぶ活動の歴史が刻まれていました。